

AMED『橋渡し研究プログラム 異分野融合型研究開発推進支援事業』のご紹介

*大菊 鋼¹, 池田 浩治², 許斐 健二³, 永井 純正⁴, 名井 陽⁵, 戸高 浩司⁶, 塩塚 政孝⁷

- (1. 京都大学 学術研究支援室, 2. 東北大学病院 臨床研究推進センター, 3. 慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター,
- 4. 京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構, 5. 大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部未来医療センター,
- 6. 九州大学病院 ARO 次世代医療センター, 7. 日本医療研究開発機構 シーズ開発・研究基盤事業部 拠点研究事業課)



AMEDの研究費ってハードル高そう

医療のニーズがわからない

革新的な応用研究で社会貢献してみたい

医療応用の可能性を試したいけど研究費がない

医歯薬系所属以外の研究者

医療実用化を目指す要素技術

研究費配分

拠点がサポート！

情報提供し戦略策定や資金調達についても支援

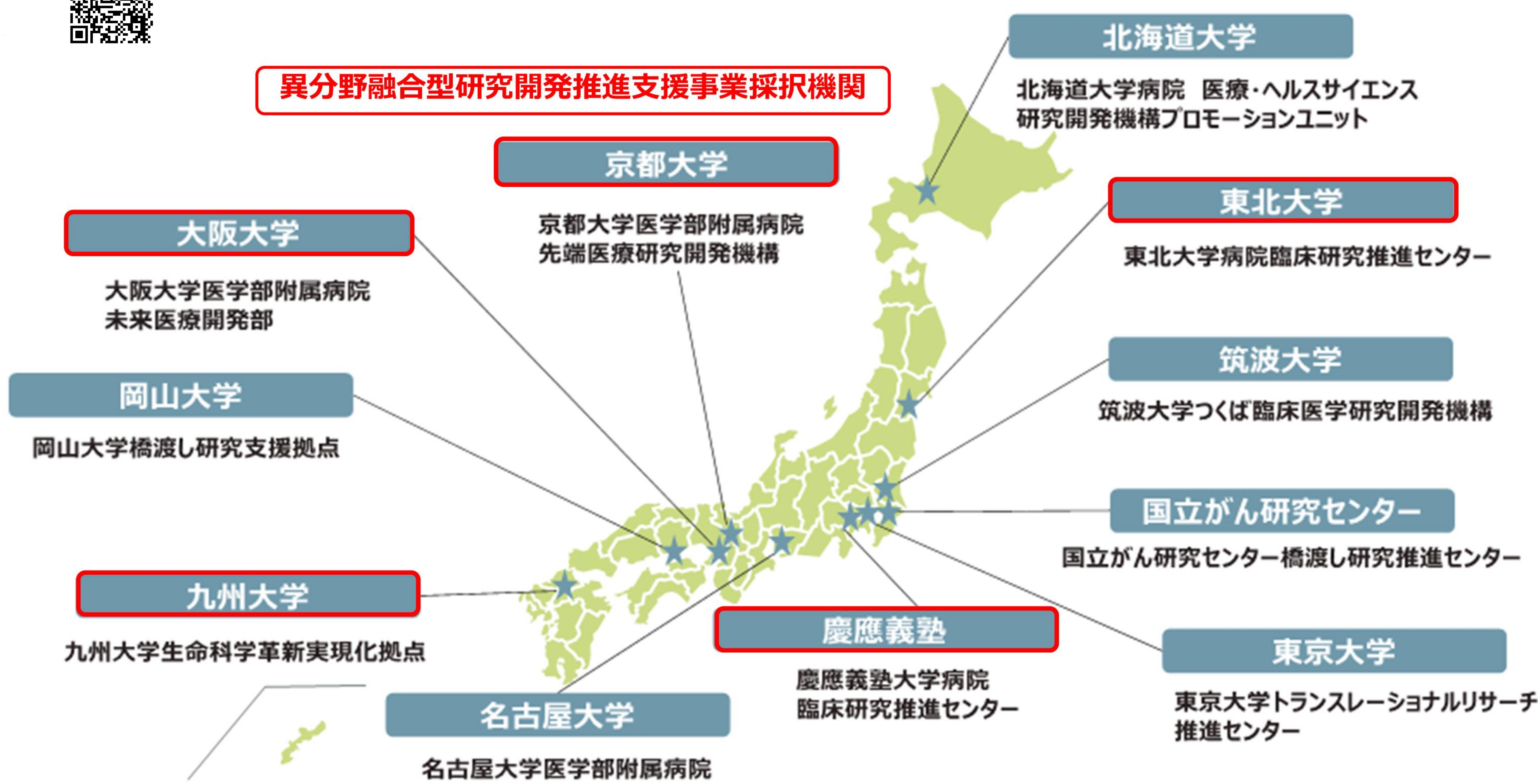
シーズ支援において機関が実施すること

- <発掘>** 橋渡し支援機関がシーズを支援機関内外から広く募る（出張説明会や個別相談会、URAへ相談）
- <選定>** 公平性かつ透明性が確保された採択決定体制を構築し、評価項目や採択基準を明確にした上でシーズの選定を行う
- <育成>** 研究開発の具体的計画策定、明確な目標設定や課題抽出など、医療実用化を目指す上での適切な研究開発のプロセスマネジメントを行うとともに、研究開発費を配分する
異分野領域から医療応用を目指す上で必要となる情報や環境を提供する

- 要素技術の原理確認
- シーズのステージアップや実用化に関する他研究費事業への応募
将来の出口は見据えつつ、そこまでマインドセットが至っていない
しかし先端的・革新的な技術を有しているシーズ
テクノロジーブッシュの研究を
いかに具体的な臨床医療ニーズに結びつけるか
対象疾患等応用方針が定まれば次のステップへ
加えて、研究開発者と十分に検討した上で実施すること

- 企業との情報交換の場の設定等による議論の開始
- 企業と連携した上での特許出願・特許網構築
概念特許、発明の低性能化による広範囲の権利化...
- 先端技術が社会的に受け入れられるための技術アセスメントやELSI（倫理的社会的法的課題）、ガイドライン提言等への取組の開始
デュアルユース・規制・社会の問題を事前に解決する取組を推奨

橋渡し研究支援機関



	予定公募時期	配分額/年度
東北大学	12月/8月の2回公募	実用化枠：240万円程度（10課題程度） 萌芽枠：160万円程度（5課題程度）
	東北大学病院 臨床研究推進センター（CRIETO）	https://www.crieto.hosp.tohoku.ac.jp/
慶應義塾	9月下旬開始	200万円程度
	慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター（CTR）	https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/
京都大学	10月上旬～10月下旬	150～300万円予定
	京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構（IACT）	https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/
大阪大学	10月～11月中旬	最大500万円程度（15課題程度）
	大阪大学医学部附属病院 未来医療センター（MTR）	http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp/
九州大学	11月下旬～12月中旬	特定領域：上限500万円（5課題程度） 一般領域：上限200万円（5課題程度）
	西日本橋渡し研究ネットワーク（WAT-NeW）	https://wat-new.org/

R5年度シーズ公募予告

橋渡し研究機関（拠点）は医療実用化のための開発支援を行い、研究者は受給した研究費から支援に対する対価を支払う仕組みになっています。

応募希望の先生方は先ず拠点にご相談を！

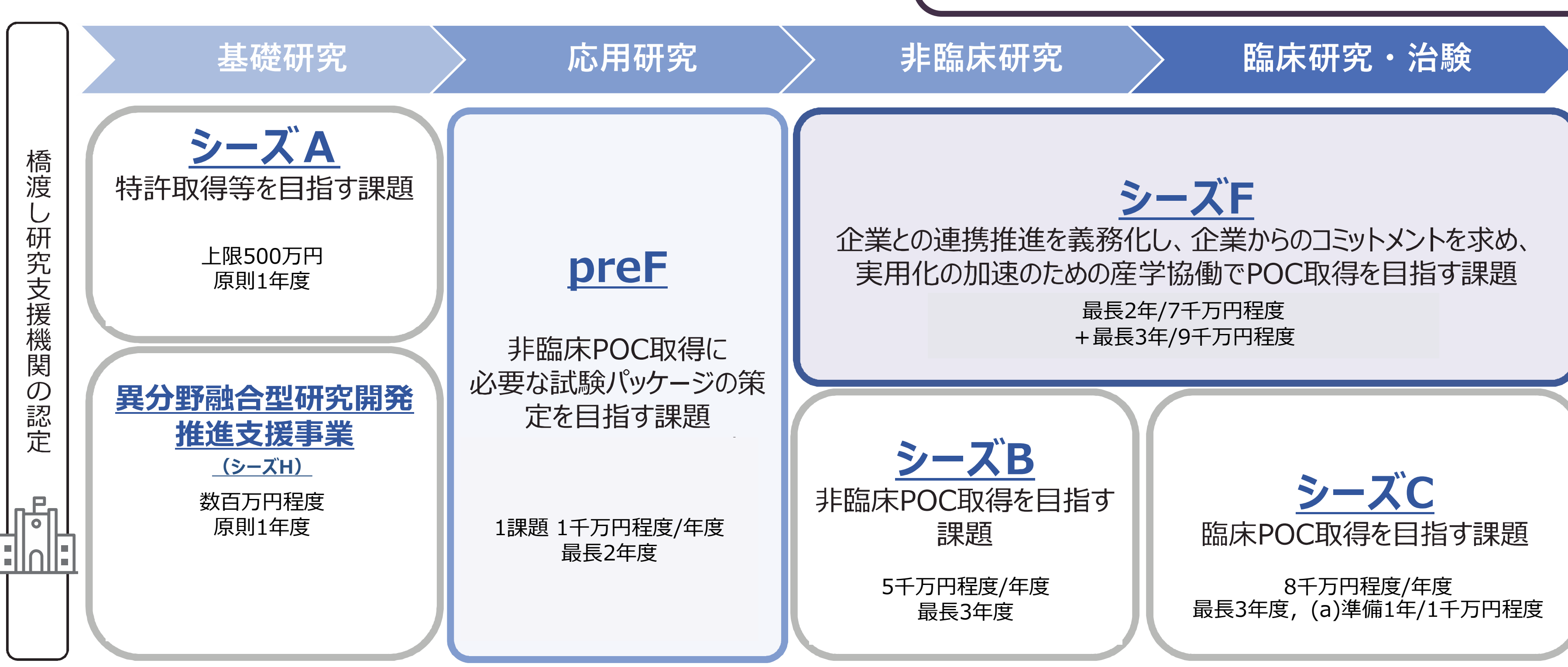
研究者 → シーズ登録 研究費申請 → 橋渡し研究支援機関 → 文部科学省

橋渡し研究支援機関 → 実用化支援 → 研究者

橋渡し研究支援機関 → 運営の助言等 → 研究者

橋渡し研究支援機関 → 研究費申請（実用化に先回り） → 研究者

橋渡し研究プログラム (R4年度実績)



拠点における審査

拠点とAMEDの2段階で審査 (拠点が推薦した課題をAMEDが審査)

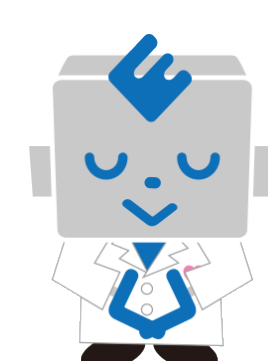
橋渡し研究支援機関の研究支援を希望する研究者の皆様へ

橋渡し研究プログラムへは、橋渡し研究支援機関を通じて応募する必要があります。

応募するためには当該研究課題が橋渡し研究支援機関による支援シーズであることが必要です。

1. 橋渡し研究支援機関への相談：研究費申請を希望なら余裕を持って連絡を。
2. 支援シーズとして登録：各機関により手続きは違い、相談先機関での支援は確約できません。
3. 橋渡し研究プログラムへの応募：応募課題の選定のため機関にて事前審査あり

研究者の皆様にとって
魅力的なプログラムですので
奮ってご活用ください。



本事業はAMED補助事業 22ym0126812j0001, 22ym0126813j0001, 22ym0126814j0001, 22ym0126815j0001, 22ym0126816j0001の支援を受け実施しているものです。